

# さんりんしゃ

発行 麻生区地域教育会議  
 発行日 2018年3月31日  
 事務局 川崎市麻生市民館内  
 麻生区万福寺 1-5-2  
 TEL: 044-951-1300  
 FAX: 044-951-1650

## 平成29年度の事業と取り組み内容

### ～あさおの寺子屋グループ・子ども会議グループ

### ・広報紙グループにわかれて活動～

#### 《 活動内容 》

★あさおの寺子屋活動を通して情報収集や啓発活動につなげる

★「地域の寺子屋事業」との情報交換

川崎市で推進されている「地域の寺子屋」事業について、事業のなりたち、ねらい、運営などについて学び、現在活動している3校の活動報告と情報交換・交流会およびシンポジウムを開催



寺子屋シンポジウム

★子ども会議との関わりの中で地域の教育課題や解決策をさぐる

★市民館と地域教育会議との連携を深める

麻生区PTA協議会、麻生市民館、川崎市教育委員会との共催により、国立極地研究所・文部科学省の協力で、PTA家庭教育学級「南極講座！特別編」を開催 南極昭和基地と百合丘小学校の衛星回線をつないだ南極からの講座を実施

★子どもが集まる地域の催事を活用し、意識調査を行う

★災害時等の子どもが自立して活動できることをめざした事業を展開する

東日本大震災後、「もしも大地震がおこったら～」と題して継続して意識調査を実施 災害時の対応について家庭・ご近所で話し合いはしているか、防災やいざという時の備えができていないかなど、大人と子どもにわけてアンケートを実施（麻生スポーツセンターにて）

★中学校区地域教育会議との情報交換、交流会

8つの中学校区地域教育会議の皆さんとの情報交換・交流会を開催 それぞれの活動報告や課題や解決策の共有を図る場として実施



子ども会議

#### 平成29年度 麻生区地域教育会議 アンケート結果

##### 1. 寺子屋シンポジウム参加者情報

《 性別 》

女性 12名

男性 12名

《 年齢 》

70歳以上

60歳代

50歳代

40歳代

30歳代

20歳代

10歳代

0歳代

《 住所 》

麻生区 上麻生4名、玉津寺西4名、滝山2名、

千代ヶ丘2名、玉津寺2名、白鳥2名、

内藤1名、玉津寺東1名、白山1名、

栗木1名、

多摩区生田1名、区外2名、

《 これまでの参加回数 》

初めて: 17名 ・ 2回目: 5名 ・ 4回目: 1名 ・ 回答なし: 1名

##### 2. 寺子屋シンポジウムについて

(1) シンポジウムの開催をご存知でしたか?

事業チラシ: 16名 ・ 知人友人: 4名 ・ 寺子屋: 2名 ・ 学校: 1名 ・ 不明1名

(2) シンポジウムに参加した感想

- ① 寺子屋という活動があることを初めて知り、子どものために頑張っておられる方が、いることを知りました。
- ② 各寺子屋でそれぞれ工夫して運営していることが参考になりました。活動にいかせることもありました。
- ③ 「寺子屋」の趣旨・企画・運営それぞれが素晴らしいと感じました。今後は非実施される小学校が増えることを願います。
- ④ 地域の声が増えて参考になりました。(2名)

寺子屋シンポジウムアンケートまとめ



# あさおの寺子屋グループ



## シンポジウム「地域の寺子屋ってなあに？」開催

2月10日(土)10時から麻生市民館大会議室で一般参加者29名、麻生区3校の寺子屋コーディネーター4名、市教育委員会より3名、麻生区より区長・市民館長・担当係長・職員の4名、麻生区地域教育会議委員9名の計49名の出席のもとにシンポジウムが開催されました。

山崎議長の挨拶に始まり、担当よりシンポジウムが開催されるまでの経緯や開催主旨の説明がありました。次に北沢麻生区長より「地域ぐるみで子ども達の教育や学習をサポートする仕組みづくり・シニア世代をはじめとする地域の様々な方の知識と経験を活かした多世代で学ぶ生涯学習の拠点づくり、子ども達に豊かな学びや体験の機会を提供することによる学ぶ意欲の向上や豊かな人間性の形成」を目的に平成26年から市教育委員会の主導のもとに「地域の寺子屋事業がスタートしたことについて話され、区内においても多くの方々の努力でこの事業が軌道に乗ってきていることについて感謝の言葉がありました。



教育委員会生涯学習推進課の片山係長より、寺子屋事業について経緯と立ち上げについての考え方などの話があり、寺子屋開講のサポート活動として「寺子屋の先生やコーディネーターの養成講座」の開催や「地域の寺子屋推進フォーラム」について説明がありました。

麻生区内で現在開講中の3校「寺子屋西生田」「寺子屋栗木台」・「寺子屋わかたけ」の発表がありました。それぞれに特色ある学習支援・体験活動を行っていることがよく分かりました。

本シンポジウムのメインの催しとして、2つのグループに別れて、フリートークスタイルで意見交換を行いました。

本シンポジウムのメインの催しとして、2つのグループに別れて、フリートークスタイルで意見交換を行いました。

### <主な意見と質問>

- ・「わくわく」と「寺子屋」の違いは？
- ・学習支援は国語・算数が中心であるが、お楽しみタイムなどでは理科、社会に関係する内容も取り上げている。
- ・寺子屋で活動するのに場所がせまいことなどの問題点。
- ・寺子屋先生として参加するに当たって躊躇していることや、



参加する場合の心得などについての感想。等々、フリートークの時間が短かったにも関わらず、寺子屋活動をプラスに受け止め、今後、発展していくことを期待する声や自分自身もかかわっていきいたいといった前向きな感想が多かった。本シンポジウムがきっかけとなり寺子屋を始める学校や寺子屋先生が増えることを期待しつつ閉会となりました。



# 子ども会議グループ

## 「南極講座 特別編！」

麻生区PTA協議会、川崎市教育委員会主催 麻生区地域教育会議子ども会議 共催の「南極講座 特別編！」が2月10日（土）百合丘小学校の体育館で開催されました。

区内の小・中学校の児童・生徒へのチラシの配付や各タウン紙への掲載の甲斐あって会場となった体育館には、長蛇の列ができました。講座は2部構成で、前半は国立極地研究所広報室長で第58次南極観測隊長の本吉洋一さんによる「南極は地球・宇宙ののぞき窓」と題した講座です。

ペンギンやアザラシなど南極で暮らす生き物の話、太古の時代、アフリカ大陸やインド半島、南極大陸がひとつであったことを証明するような宝石が発掘された話、南極大陸に落下した隕石の話など、大人も子ども夢中になるような話を映像やクイズを交えて話してくださいました。後半はいよいよ山口直子先生が登場し、現地との衛星回線によるTV会議システムを用いた講座です。

山口直子先生は、麻生区在住で金程小学校に6年間勤務、現在は多摩区の菅小学校で教諭をしています。南極に魅せられ、国立極地研究所、文部科学省が実施する「教員南極派遣プログラム」に応募、みごと採用となり今回の第59次南極観測隊に同行しています。まず、11月の末に日本を出発しオーストラリアからは氷砕船「しらせ」に乗船し、およそ1か月かけて南極に到着した様子が紹介されました。

山口直子先生は、麻生区在住で金程小学校に6年間勤務、現在は多摩区の菅小学校で教諭をしています。南極に魅せられ、国立極地研究所、文部科学省が実施する「教員南極派遣プログラム」に応募、みごと採用となり今回の第59次南極観測隊に同行しています。まず、11月の末に日本を出発しオーストラリアからは氷砕船「しらせ」に乗船し、およそ1か月かけて南極に到着した様子が紹介されました。

前日の9日はちょうど平昌オリンピックの開会式で現地の気温はマイナス4度と報道されていました。体育館はストーブをつけても息が白くなる寒さで臨場感たっぷりでしたが、現在南極の季節は夏。それでもマイナス0.4度という寒さのなか、まずは屋外からの中継が始まりました。南極には昭和基地に在住してアンテナや重機をメンテナンスする人、企業や大学で自然や動植物を研究する人、日本にいる家族とラインで通信する人、そして大切な食事を支える人などが紹介されました。

中継場所を室内にうつしたあとは、会場内の子どもたちから集めた質問コーナーです。地球温暖化やオーロラ、南極での服装のことなど、画面をとおして質問することができました。会場には現地から運び込まれた氷も展示され、直接手で触ることもできて冷たい氷の感触や、溶けていくときにでる音まで楽しむことができました。講座終了後に実施したアンケートでも、今度は、宇宙の話が聞きたい。海外の学校と通信がしてみたいなどたくさんの意見が寄せられました。





## 川崎市地域教育会議推進協議会の活動

★川崎市全51中学校区および7行政区の地域教育会議代表者会議の実施（年4回）

★第14回川崎市地域教育会議交流会を開催【平成30年2月17日（土）麻生市民館にて】

テーマ 『「かわさき家庭と地域の日」を迎えるにあたって』

参加者 川崎市全域より約90名

内容 教育委員会担当からの「かわさき家庭と地域の日」の概要および設定の主旨説明

テーマについてのグループディスカッション パネル展示による各地域教育会議の活動紹介

<意見・感想>

- ・3連休後は、有休を取り難いのではないかと、親が休めない家庭はどうするのか？  
制度導入による地域教育会議の役割は？
- ・まずはやってみることが重要。全市としてのガイドラインがあるとよいのではないかと。
- ・シニア層参加の働き方を含め、さまざまな関係部署、団体に市から発信してほしい。

<<「かわさき家庭と地域の日」とは>>

学校教育法施行令の一部が改正され、「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り開く子どもを育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力向上」を目指して、大人と子どもがふれあひながら充実した時間を過ごすことができるように、家庭や地域における体験的な学習活動等、多様な活動の充実を図るための休日が設けられることになりました。これを受け、川崎市でも、平成30年度から「かわさき家庭と地域の日」が始まります。平成30年度は10月9日（火）の予定。

## 麻生区地域教育会議交流会

今年度は臨時を含め4回の情報交換・交流会を開催 各中学校区の活動報告と情報共有

8中学校区地域教育会議の主な取り組み

麻生中学校区： 地域清掃とやきいも大会 学校授業、職業体験協力 子ども会議など

王禅寺中央中学校区： アートフェスティバル 早野のたき火 教育を語る集いなど

柿生中学校区： 夏休み親子映画鑑賞会 教育を語る集い 子ども会議など

金程中学校区： ハートフルコンサート 親子うどん打ち 防災講演会など

白鳥中学校区： 黒川自然観察会 子ども会議 地区懇談会など

長沢中学校区： たぬきフェスティバル こだぬき会議（子ども会議） 3校合同大人の懇談会など

西生田中学校区： 防災イベント 食育イベントなど

はるひ野中学校区： ハザードマップ作成 子ども会議など

## 編集後記

冬季平昌オリンピック・パラリンピックは、人々に大きな夢や勇気、そして感動を与えてくれました。特に怪我から再起し、金メダルの羽生結弦選手や若手や女子選手、団体種目などの大活躍は凄く東京オリンピックが楽しみです。引き続いてのパラリンピックは、いろいろな苦難を体験しながら、己の能力を生かし、あきらめない精神力と努力、想像を絶する練習の成果を見せてくれた勇姿に、驚きと共に力強く生きることの意義を知らされた思いです。それにしても、メディアの果たす役割は大きい、中でも一過性の映像よりも、新聞など紙媒体がより力を発揮していたように思います。多くの人々の「心のバリアフリー」に繋がったのではないかと、大変うれしいことです。

さて、行政区地域教育会議は、教育の方向性の変化や地域の教育力の低下など踏まえて、新たな目標や活動を模索することが急務ではないか？また、中学校区との関わりを通して、如何に活性化が図れるか、など課題は山積していますが、委員の若返りが、会の運営に活力をもたらしているの期待するところが大きい。

地域の皆さんが、住民委員として「地域教育会議」に参加して頂くためにも、広報「さんりんしゃ」の役割は大事であり、理解と協力の得られる紙面づくりに努めます。

《発行人》

山崎 優

《編集》橋本 周

井上 俊夫

谷川みゆき